

「三方良し」の精神で

安倍晋三政権の経済政策、「アベノミクス」の効果もあり、一部の経営環境に明るい兆しが見えた。滋賀産業人クラブの坂口康一会長(近江鍛工社長)、吉田郁雄副会長(滋賀銀行専務)が対談し、滋賀県や滋賀産業人クラブメンバーへも滋賀企業の強みなどについて語った。

現在の経済環境、「アベノミクス」の効果や期待は、吉田「一番肝心なのは成長戦略である第3の矢。第1、第2の矢の金融・財政を含め、国や首相の成功させよう」という意気込みがひしひし伝わり、これが期待を受けているわけではない。国内総生産(GDP)が年換算で2・6%増という数値は期待のあらわれではない。ただ、当行のしげん経済文化センターの調査でも明らかになっているが、原材料や燃料費高騰がコストアップ要因となり、今は実態として、すべてが好影響を受けているわけではない。坂口「コストアップ要因となる地域で、事業継続計画(BCP)上でも有利。交通

は仕事が増え、商品が売れるといふといふ状況が続いている。製造業全般に言えることだが、円高で大手を中心とした外に拠点をシフトした。ところが今の円安で戻ってきたかと言えばそうでもない。生き



吉田副会長

思つ。ずっと

熱心なほか、新エネルギー

が得られました。

航空機、環境関連など成長産

業への進出、既存事業の強化

が、

「売り手よし、買い手よ

し、世間よし」の「三方良

い」という近江商人の精神を

備え、新工不創工、医療や

航空機、環境関連など成長産

業への進出、既存事業の強化

が、

「売り手よし、買い手よ

し、世間よし」の「三方良

い」という近江商人の精神を